

笠岡諸島における行政・NPO法人・住民との連携協働による教育実践

二宮 一枝

保健福祉学部看護学科

平成 23 年度から平成 28 年度まで、岡山県備中県民局(保健所)の事業を活用して、保健所・笠岡市・NPO法人・住民との連携協働により、北木島を拠点に離島における教育実践を行ってきた。当初は保健師・看護師統合カリキュラムにおける保健師教育の課外授業として位置づけたが、保健師教育修業年限の改正を機に保健師教育は大学院に移行し、現在は看護師教育の必修科目となった。しかし、平成 28 年度から共通教育において社会連携教育が開始されるとともに、平成 31 年度に向けた看護学教育カリキュラム改正の検討が緒についた。そこで、これからの看護学科のカリキュラム検討に資するため、「学士課程においてコアとなる看護実践能力」及び保健師教育におけるミニマム・リクワイアメンツの視点から 6 年間の笠岡諸島での教育実践について考察した。結果、統合実習は、全学教育方針とも合致し、地域包括ケアシステムに対応する看護実践能力の修得が可能であることを確認した。

キーワード：地域、連携協働、看護学教育、カリキュラム、離島

はじめに

医療政策は病院完結型から地域完結型へと転換し、医療・介護一体化による「地域包括ケアシステム」の構築が喫緊の課題となっている（社会保障制度改革国民会議、2013）。文部科学省では平成 28 年 11 月開催の「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会（第 1 回）」において、これからの医療提供体制や地域包括ケアシステムへの対応、看護実践能力の修得等について検討し、平成 31 年度からは看護学教育モデル・コア・カリキュラム（以下、モデル・コア・カリと略記）を開始する方針を示した（文部科学省、2016）。

平成 23 年度から岡山県備中県民局（保健所）保健師の発案により「地域における保健医療従事者の育成支援事業」（以下、事業と略記）が開始され、地域看護学実習施設の不足等を補完するため、保健師教育の課外授

業として位置づけた。その後、カリキュラム改正等に対応しながら、保健所・笠岡市・NPO法人・住民との連携協働により、北木島を拠点とした宿泊による教育活動を行ってきた。

平成 27 年度からは、看護師教育の必修科目である統合実習となった。同時に、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」が開始された。平成 28 年度には副専攻カリキュラム「岡山創生学」が開講された。また、COC+コミュニティ・パートナー育成事業により他大学を含む学生有志で島の運動会、白石島宿泊研修を実施した。今後は、平成 31 年度に向けて、地域志向の人材育成をめざす全学教育とモデル・コア・カリとの観点から、看護学科のカリキュラムを検討する必要がある。

そこで、「学士課程においてコアとなる看護実践能力」（大学における看護系人材養成

の在り方に関する検討会、2011) 及び保健師教育におけるミニマム・リクワイアメンツ (以下、MR と略記) (保健師教育検討委員会、2016) の視点から、平成 23 年度から平成 28 年度までの笠岡諸島における教育実践について考察し、看護学科カリキュラムの検討に資することとした。

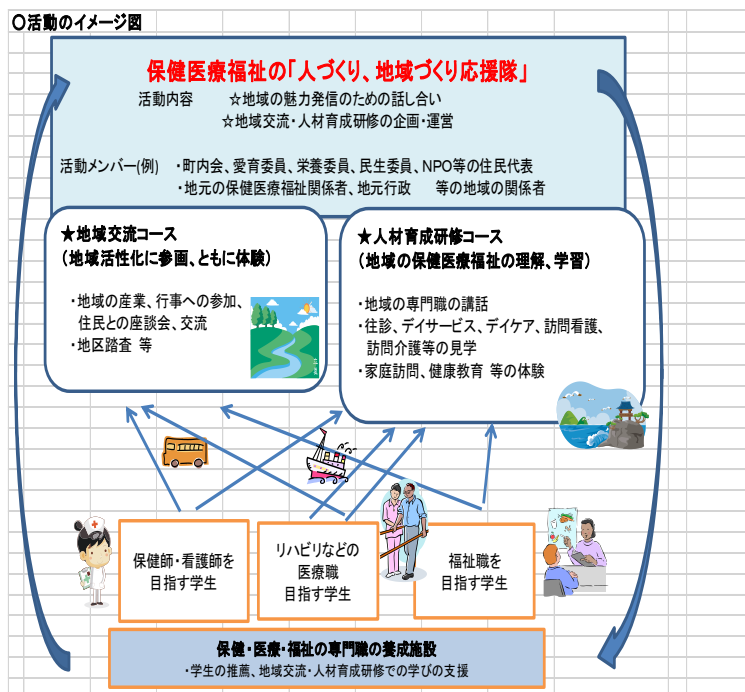
1. 岡山県備中県民局事業の概要

平成 23 年度から平成 25 年度までは備中県民局地域活力創出事業「地域における保健医療従事者育成支援事業」を本学が受託して実施した。この事業の目的は「備中県民局管内の中山間地域において、各地域の多様な主体が連携し、地域づくり活動や医療に理解や興味を持つ学生を対象として、地域住民との交流や実践的な研修の機会を設けることにより、地域活性化及び人材育成

を推進する」ことにある。初年度は本学が北木島、山陽学園大学が白石島で実施したが、次年度から井原市美星町と高梁市宇治地区等に拡大し 4 大学が参加した。参加校のみでなく、受け入れ住民からも好評であった (菱川他、2015)。

平成 26 年度から平成 28 年度は、『わが町で保健医療福祉の「人づくり、地域づくり応援隊」事業』を NPO 法人等に委託し、学生の習熟度別の地域交流コースと人材育成コースに学校が参加する方法になった。本学は、4 年生や院生 (保健師課程) が NPO 法人かさおか島づくり海社の人材育成コースに参加することとした。

なお、本学が事業を活用して北木島を拠点に行政・NPO 法人・住民との協働で実践した実績は表 1 に示した。



(備中県民局：わが町で保健医療福祉の「人づくり、地域づくり応援隊」事業案内より抜粋)

表1. 笠岡諸島における行政・NPO法人・住民との協働による教育実践実績

年度	参加学生	実施概要（打ち合わせ会議等除く）	経費
23	○統合カリ 4年生6名 3年生13名 1年生3名	7月7日～10月30日(天野屋泊) 事前研修(有志) 北木島大浦祭り、笠岡市 宿泊研修 北木島(2泊3日) 事後研修(有志) 島の運動会(白石島)	局(大学)*1
24	○統合カリ 4年生7名 3年生43名 2年生3名	5月15日～3月3日(民泊34名・天野屋-三虎泊) 事前研修真鍋島(有志);島の運動会、地区踏査 授業(笠岡市保健師ガイダンス) 真鍋島・北木島宿泊研修(1泊2日) 事後研修(有志) 島の大学芸会(北木島)	局(大学)*1
25	○統合カリ 4年生6名 3年生42名 デザイン学科1名	5月22日～2月6日(民泊・天野屋-三虎泊) 事前研修(有志);島の運動会、地区踏査 授業(笠岡市保健師ガイダンス) 真鍋島・北木島宿泊研修(1泊2日) 事後研修(有志)北木島公民館祭「島の笑顔」写真展 北木島・真鍋島研修学内報告会	局(大学)*1
26	院保健師課程2名 ○統合カリ 4年生6名 3年生5名 デザイン学科1名	8月22日～3月23日(天野屋泊) 授業(笠岡市保健師ガイダンス) 北木島宿泊研修(1泊2日/2班) 学内反省会(1班から2班への引継ぎ) 往診同行訪問 島の保健室開催	局(NPO)*2 教育力*3
27	院保健師課程1名 ◎看護師課程 4年生40名 3年生43名	9月28日～11月30日(石切の杜泊) 事前研修飛島(有志);島の運動会、地区踏査 全体オリテーション(保健所/笠岡市) 統合実習B(北木島1泊2日/2班)中学生出前授業 学内全体報告会(4・3年生)保健所/笠岡市/NPO	局(NPO)*2 教育力*3 教育管理費
28	◎看護師課程 4年生43名 3年生40名 院保健師課程4名 ■COC+有志	9月22日～3月23日(石切の杜泊) 全体オリテーション(保健所/笠岡市) 統合実習B(北木島1泊2日/2班) 学内全体報告会(4・3年生)保健所/笠岡市/NPO ■島の運動会六島/白石島宿泊研修(3年生 院生有志)	局(NPO)*2 教育管理費 ■COC+コミュニティパートナー育成事業

*1. 備中県民局地域活力創出事業「地域における保健医療従事者育成支援事業」を本学が受託して実施

*2. 備中県民局事業『わが町で保健医療福祉の「人づくり、地域づくり応援隊」事業』を受託したNPO法人かさおか島づくり海社の事業に参加した。

*3. 岡山県立大学教育力向上支援事業「看護専門職のためのグローバルラーニングシステム構築」

2. 看護学科のカリキュラムの変遷

平成 23 年度から平成 28 年度までの 6 年間のカリキュラムの変遷を表 2 に示した。平成 21 年 7 月に公布された保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部を改正する法律の提案趣旨^{注2}に基づき、保健師、助産師の国家試験受験資格に必要なとされる修業年限が 6 か月以上から 1 年以上に延長された。法改正に続き、平成 23 年 1 月、指定規則が改正された。この結果、保健師教育の内容に関する科目が「地域看護学」から「公衆衛生看護学」へ変更され、保健師及び助産師の国家試験受験資格取得に必要な単位数が従来の 23 単位から 28 単位に増加した。これに伴い、

卒業時の看護実践能力の強化や職業アイデンティティの育成が要請されるなど、資格取得にかかる教育のさらなる充実が求められることとなった（大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会、2011）。このため、本学は平成 24 年度から学部では看護師課程（一部は助産師も取得可）とし、保健師教育は平成 25 年度から修士課程に移行した。さらに、平成 28 年度入学生からは共通教育に副専攻カリキュラム「岡山創生学」が開講された。

以下、笠岡諸島における行政・NPO 法人・住民との連携協働による教育実践とカリキュラムとの関係について述べる。

表 2. 看護学科・看護学専攻カリキュラムの変遷（平成 23～平成 28 年度関係部分抜粋）

年度	統合カリ（●看護師◆保健師）	●看護師課程/ ◆保健師課程	指定規則改正
23	4 年生：平成 20 年度入学 （◆旧カリ実習 3 単位） 3 年生：平成 21 年度入学◆ （実習 4 単位読み替 3 単位）		【21 年度入学：保健師】 <u>地域看護学実習 4 単位</u> *保健所・市町村実習受入 方針で全員 4 単位は不可。 本学は読み替えて 3 単位
24	4 年生：平成 21 年度入学* ●看護マネジメント実習	●1 年生：平成 24 年度入学生	【21 年度入学：看護師】 <u>在宅看護論実習 2 単位</u> *本学は読み替え
25	4 年生：平成 22 年度入学◆ ●看護マネジメント実習	●2 年生：平成 24 年度入学生 ◆院前期課程に保健師課程開講	<u>看護の統合と実践実習</u> <u>（統合実習と略記） 2 単位</u> *本学は看護マネジメント 実習として卒ゼミ担当教員 の領域で実習。
26	4 年生： <u>平成 23 年度入学</u> ◆ 3 年生（◆旧カリ）1 名 ●看護マネジメント実習	●3 年生：平成 24 年度入学生 看護政策マネジメント論（演習） ◆公衆衛生看護活動展開論	【23 年度入学：保健師】 修業年限 6 か月→1 年以上 <u>公衆衛生看護学実習 5 単位</u> *本学は読み替えて保健 所・市町村実習は 3 単位
27	4 年生（◆旧カリ）1 名	●4 年生：平成 24 年度入学生 <u>統合実習(B)全員 北木島で宿泊</u> 3 年生：看護政策マネジメント論 ◆公衆衛生看護診断論演習	
28		4 年生：統合実習 ◆院生参加 3 年生：看護政策マネジメント論 ◎1 年生：全学 「岡山創生学」	

3. 笠岡諸島における教育実践

1) 平成 23 年度～平成 25 年度

本学における看護学教育は、開学来、統合カリ（一部は助産師も取得可）であった。平成 20 年 1 月における看護師養成所指定規則改正では、新人看護師の看護実践能力の低下等を背景に教育内容の充実を図る目的で、新たに統合分野が新設され、総単位数が 97 単位となった。また、保健師教育においても実践力強化のため、「地域看護学実習」3 単位から 1 単位増となった。これらを踏まえて改正したカリキュラムは平成 21 年度入学生から適用となった。

しかし、看護系大学の増設により、岡山県における保健所・市町村実習では全学生を 4 単位受け入れることは不可能であり、看護師指定規則科目履修済みで、かつ保健師就職希望の学生を優先して受け入れる旨の方針が示された。本学の統合カリの実習は、小児看護学の保育所実習や老年看護学の訪問看護ステーション実習等を読み替えて、保健所・市町村実習は 3 単位のままとし、県の受け入れ方針の優先要件を満たさない大半の学生には、新たに事業所を開拓して、保健所・市町村実習 1～2 単位を補完した。

一方、看護師教育において新設された統合分野では、「在宅看護論実習」2 単位と「看護の統合と実践実習」（統合実習と略記）2 単位が加わった。前者については保健師教育課程の地域看護学実習で読み替え、統合実習のみ看護マネジメント実習として各ゼミ担当教員が実施することとした（表 2）。

ただし、統合カリであっても、保健師教育としては、地域看護学の 3 側面（村島、2004）、即ち、病院等の看護職が「地域に向けて看護

する」、訪問看護ステーション等の看護職が「地域で看護する」ではなく、公衆衛生看護学として行政保健師が「地域を看護する」という視点から、責任をもつべき対象の人々・地域全体のニーズを生活者の視点に立ち、個人要因のみでなく地理・社会経済・文化・歴史等の環境要因を考慮して地域看護診断（アセスメント）により課題・必要性を明らかにすることを理解させる必要がある。また、保健師教育としては、災害看護学やプライマリー・ヘルスケアの理解は必須であり、このためにも、へき地・離島での生活体験は貴重であると考えた。

そこで、平成 23 年度に上述の実習制限を補完するためにも事業を受託した。年度中途でもあり、4 年生等有志を対象に夏季休暇を利用して課外活動（以下、宿泊研修）とした。受託事業の目的にてらし、宿泊研修の目標は、①<地域を看護するために、住民・当事者の生活をアセスメントする>②<地域の課題を明らかにし、必要な保健サービスを実施・評価する>とした。これは「地域看護診断論（演習）」の発展であり、「学士課程においてコアとなる看護実践能力」Ⅱ【根拠に基づき看護を計画的に実践する能力】の「地域の特性と健康課題を査定（Assessment）する能力」に相当する。4 年生（旧カリキュラム）にとって、平成 21 年度入学生（当時 3 年生）から適用される「統合実習」に該当し、3 年生にとっては、4 年次の「地域看護学実習」（保健所・市町村）に該当することから、現行カリキュラムの補完として有意義であった（二宮、2012）。

平成 24 年度は 3 年生全員を対象に「地域看護診断論（3 年前期開講）」を進展させ、

「保健福祉行財政論（3年後期開講）」の導入となるよう宿泊研修を企画した。しかし、3年生全員が夏季休暇中に2泊3日で実施することは困難であった。幸い、笠岡市／NPO法人から、新たに真鍋島を加え、生活の視点を強化するためにも民泊導入の提案があり、1泊2日で実施できた。島の方々のご理解で約8割の学生が民泊できた。また、4年生の一部は看護マネジメント実習として参加した。宿泊研修の目的は、民泊も可能となったことから前年度の目標に、「住民と共に」の視点を強調し、①<地域を看護するために必要な情報を、現地において実際に住民と接して収集・分析する>②<地域の健康課題を住民とともに明らかにする>に加え、③<住民への聞き取り調査等から、昨年度の地区診断で得られた結果の確認、評価を行い北木島に必要な保健医療福祉施策について考察できる>とした（二宮、2013）。これは前年度同様に、「学士課程においてコアとなる看護実践能力」Ⅱ【根拠に基づき看護を計画的に実践する能力】に相当するが、保健師教育におけるMRのうち「地域の人々と協働して、健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高める」ことに意義を有する。

平成25年度は、民泊を前提に、宿泊研修の目的は、「離島の生活を体験することにより」を加え、①<離島の生活を体験することにより、離島の保健医療・看護の現状と課題について考える>②<地域を看護するために生活者の視点で情報集・分析する>③<住民と共に地域の健康課題を明らかにし、課題解決に向けた提案ができる>とした。留意事項として、<グループに分かれて住民への聞き取りや地区踏査を行い、住民の暮らし、健

康状況等を把握し、アセット（島の力）の観点から島の人々と共に島の未来を描くこと>を周知した。4年生がリードして住民と共に島の強みや課題等について話しあうことができた。また、各島最終日の住民報告会に加え、北木島・真鍋島合同の学内報告会で地域包括ケアシステムの観点から学びを共有した（二宮、2014）。地域包括ケアシステムについては、「学士課程においてコアとなる看護実践能力」に明記されていないが、保健師教育におけるMRでは「Ⅳ. 地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力」に相当し、統合カリとしては担保すべき能力である。

2) 平成26年度～平成28年度

平成26年度から『わが町で保健医療福祉の「人づくり地域づくり」応援隊事業』を受託したNPO法人かさおか島づくり海社の地域交流・人材育成コースに参加することになった。移行期のため、対象とする学生は多様であるが小人数であった。しかし、今までの実績を継続・発展させるには、事業費のみでは不十分であるため、本学教育力向上支援事業「看護専門職のためのグローバル・ラーニングシステム構築」の一環として、4年生の看護マネジメント実習、院生（保健師課程）の公衆衛生看護診断論演習等を位置づけ、さらに新カリキュラム（4年間で看護師国家試験受験資格取得のみ）と旧カリキュラム（統合カリ）の3年生有志がともに学ぶ宿泊研修を企画・実施した。宿泊研修の目的としては、前年度③<住民と共に地域の健康課題を明らかにし、課題解決に向けた提案ができる>を修正し、<地域看護診断等をふまえ、実際の活動から、北木島の保健医療福祉の現状と課題を理解し、生活者の視

点で地域包括ケアシステム構築への提言を行う>とした。「学士課程においてコアとなる看護実践能力」は前年度同様で、上記3科目と地域看護学実習を補完し、院生(保健師課程)は公衆衛生看護活動展開論演習として「島の保健室」での健康相談や医師と往診事例のカンファレンスを行うことができた(二宮、2015)。

平成27年度は、3年次の看護政策マネジメント論(演習)に続く統合実習B(必修)として位置づけ、事業及び本学教育力向上支援事業により実施した。統合実習のねらいは<地域の特性と健康課題を査定し、生活者・当事者の視点から、生涯を通じた健康支援における看護の役割を理解し、多職種連携・協働による地域包括ケアシステムにおける看護機能の充実を図るための「看護の質の管理および改善への取り組み」について考察し、看護を創造するための基礎となる能力を育成する>ことである。

「統合実習A」(集団・組織レベル)は、領域実習の成果(個人・家族レベル)を活かして、看護管理の立場から、先行研究の知見をふまえて各実習施設における看護管理の現状を明らかにし、解決案(評価計画含む)をたてることとした。一方、統合実習B(地域レベル)では、生活者・当事者の視点から、2次保健医療圏域との関連において地域包括ケアシステムにおける看護の在り方を考えることを主眼とした。そこで、統合実習Bの目的は<地域の特性と健康課題を査定し、生活者・当事者の視点から生涯を通じた健康支援における看護の役割を理解し、多職種連携・協働による地域包括ケアシステムにおける看護機能の充実を図るための「看護の質の管理および改善への取り組み」に

ついて考察し、看護を創造するための基礎となる能力を育成する>、<生活者・当事者の視点から、2次保健医療圏域との関連において地域包括ケアシステムにおける看護の在り方を考える>とした。このことは、「学士課程においてコアとなる看護実践能力」からすれば、【ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力】のうち14)保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力が加わったと言える。

また、院生(保健師課程)1名は公衆衛生看護診断論演習として地区踏査に加え、家庭訪問等により学部生とカンファレンスにより学びを共有した。さらに、研修成果の発展、北木島関係者側からみた課題解決にむけた継続・発展を考慮し、4年生が2班に分かれて実施した活動を統合するために学内全体報告会を開催し、3年生は看護政策マネジメント論の一環として位置づけ、保健所・笠岡市・NPO法人関係者を招聘して講評いただくこととした(二宮、2016)。

平成28年度は、前年度の目的と同様ではあるが、留意事項として、「i.北木島での宿泊体験を通して、住民との交流や島の活性化等についても考える」「ii.学生が自立的に全体報告会を運営し、3年生と共に意見交換し、笠岡市等関係者の講評を得ることで、学びを深め、あわせて次年度への継承・発展をめざす」を加えた。なお、院生(保健師課程)は学部時代の実習体験等と院での学びを活かして二度目の参加となった。また、3年生の一部は看護政策マネジメント論開講前に、COC+コミュニティ・パートナー育成事業において島の運動会(開催地;六島)や白石島宿泊研修に参加した体験があり、学内全体報告会は活発であった。外部指導

者から地域包括ケアシステムとしての学習ができたという講評を得た。このことから、「統合実習B」における目標は「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の【ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力】及び保健師教育におけるMRである「地域の人々と協働して、健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高める」ことの理解を含めて良いと考えられる。このためには、地域看護学の3側面（村島、2004）を含めたアセスメントの知識と地域の人々との連携・協働の態度とが前提となる。

また、目的に示した「継続・発展」は、過去の現地報告会で参加した住民から、いつも同じ課題の指摘ではなく、解決に向け発展が実感できることも必要という意見があったことが背景にある。学生に期待される到達度は高いものの、地域の人々と共により良い方向をめざすこと、先人の知見を踏えて考察することも必要である。このことは、「岡山創生学」の教育方針（岡山県立大学、2016）とも合致する。

結びにかえて

平成23年度から6年間にわたり、保健所・笠岡市・NPO法人・住民との連携協働により、北木島を拠点に離島における教育を実践してきた。この間には、2回の指定規則改正と事業・財源の変更等があった。これらの外部要因の変化に対応した宿泊研修や統合実習Bのプログラムの実現には、保健所・笠岡市・NPO法人・住民の関係者の理解・支援が必須であった。

当初は統合カリキュラムにおける保健師教育の課外活動（研修）として位置づけたが、現在は看護師教育必修科目の統合実習

Bとなった。この教育実践は保健師教育におけるMRも考慮した地域包括ケアシステムへの対応であることから、現在、検討中のモデル・コア・カリ看護実践能力を担保し得ると推察している。

一方で、平成28年度入学生からは、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の地域連携教育として、建学理念「人間尊重と福祉の増進」に基づいた“地域で学び、地域で育つ”機会が、副専攻カリキュラム「岡山創生学」として加わった。この教育方針はこれまでの教育実践活動の目的・実績とも合致していたことから、これから改正されるであろう看護学科カリキュラムにとっても効果的である。あくまでも選択科目ではあるものの、副専攻「岡山創生学」の順序性（岡山県立大学、2016）にも考慮した統合実習Bの宿泊研修プログラムを検討する余地がある。さらに、この実施・評価をふまえて、平成31年度入学生から適用されるカリキュラムが、適切に展開され、学習成果が確認できることが期待される。

注1：平成9年に指定規則において制度化されたいわゆる統合カリキュラムは、保健師養成所と看護師養成所（3年課程及び3年課程（定時制）に限る。）又は助産師養成所と看護師養成所の指定を併せて受け、それらの教育内容を併せて教育する課程をいう（大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会、p.4、2011）。

注2：急激な少子高齢化の進行による医療ニーズの増大と多様化、療養の場の多様化等の変化に的確に対応することが求められる中、地域医療を守り、国民に良質な医療、看護を提供していくために、看護師等の看

護職員の資質及び能力の一層の向上や、看護職を一層魅力ある専門職とすることを通じた看護職員の確保が求められている（大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会、p.6、2011）。

付記

6年間にわたり、笠岡諸島での宿泊研修において、ご指導・ご支援賜りました備中保健所、笠岡市、NPO法人かさおか島づくり海社関係者そして住民の皆様方に、深謝申し上げます。

文献

・大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会：大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会最終報告書、2011.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/1302921.htm

(2016年12月25日検索)

・菱川祐季子他：わが町で保健医療福祉の人づくり～離島・中山間地域での人材育成取り組み、第21回岡山県保健福祉学会、2015.

・保健師教育検討委員会：保健師教育におけるミニマム・リクワイアメンツ全国保健師教育機関協議会コンパクト版(2016)、2016.

・文部科学省；大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会（平成28年度～）（第1回）配布資料

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gijiroku/1379378

(2016年12月25日検索)

・村嶋幸代編（2004）最新保健学講座3:地域看護支援技術、メヂカルフレンド社.

・二宮一枝編：平成23年度岡山県備中保健所受託事業「地域における保健医療従事者の育成支援事業」北木島研修報告書、2012.

・二宮一枝・富田早苗他：離島における宿泊研修試行の成果と課題、第1回日本保健師学術集会、2012.

・二宮一枝編：平成24年度岡山県備中保健所受託事業「地域における保健医療従事者の育成支援事業」北木島研修報告書、2013.

・二宮一枝編：平成25年度岡山県備中県民局受託事業「地域における保健医療従事者の育成支援事業」北木島・真鍋島研修報告書、2014.

・二宮一枝編：平成26年度岡山県立大学教育力向上支援事業「看護専門職のためのグローバル・ラーニングシステム構築—北木島研修」成果報告書、2015.

・二宮一枝編：平成27年度岡山県立大学教育力向上支援事業「看護専門職のためのグローバル・ラーニングシステム構築」笠岡市北木島研修報告書、2016.

・岡山県立大学：平成28年度履修案内、2016.

・岡山県立大学保健福祉学部看護学科：看護学科のあゆみ、2015.

・社会保障制度改革国民会議：社会保障制度改革国民会議報告書～確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋～、2013.

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kokumin_kaigi/pdf/houkokusyoo.pdf (2016年12月25日検索)

.Training Program Provided through Collaboration with Government/NPO/Residents on the Kasaoka Islands

Kazue Ninomiya

Department of Nursing Faculty of Health and Welfare, Okayama Prefectural University

Between FY2011 and FY2016, we collaborated with the Okayama Prefecture Bicchu General Service Bureau (Public Health Center), the Kasaoka local government in the prefecture, a nonprofit organization, and local residents and held training camps on isolated islands (primarily Kitagi Island) using the health center's programs. These camps were initially recognized as extracurricular lessons in an integrated curriculum for public health/hospital nurses. With changes in the time required to train public health nurses, the training became the responsibility of graduate schools, and these camps became a compulsory course for hospital nurse training. However, when community-based education began on a school-wide basis in FY2016, the hospital nurse education curriculum was revised with the aim of introducing a new system starting in FY2019. As a contribution to such revision, we therefore studied the training camps on the Kasaoka Islands over a 6-year period to evaluate them from the viewpoint of the model core curriculum revision for hospital nurse education and minimum requirements for public health nurses. We verified that the training camps comply with our school-wide educational policy, which means that students can use them to gain practical nursing skills that meet the requirements of the local comprehensive healthcare system.

Key Words : community , collaboration, nursing education ,curriculum, isolated islands